

災害介護コミュニケーションにおける高知市方言の活用をめざして —オノマトペを中心に—

橋尾直和・川田竜也・隅田久美子・竹崎菜央・多屋千咲・濱田祐可

1. はじめに

本稿は、災害時に介護コミュニケーションを行う際、介護に携わる人々が円滑な意思疎通ができるよう、特に方言オノマトペのような共通語とも形式が異なっていたり、同じ形式でも意味が異なっていたりする方言の意味・用法を調べ、生活者がそれを共有し、災害時の介護コミュニケーションに役立てていただく基礎資料の作成を目的とする。

調査項目は、2019年5月から7月にかけて、2019年度文化学部専門科目「日本語学講読の受講生たちと「災害介護方言コミュニケーション勉強会」を6回開催し、ディスカッションを重ねて決定していった。

語彙選定に当たっては、「医療関係者のための．高知の方言．Ver. 2.0」（高知大学医学部家庭医療学講座）、「保健・医療・福祉方言データベース」（高知大学教育学部岩城研究室）を参照した。オノマトペに関しては、前者が8語、後者が15語と語彙数が少なかったため、「災害介護方言コミュニケーション勉強会」で35語を設定し、調査票を作成した。

調査票に掲げてあるオノマトペのカテゴリーである「擬態語・擬動語・擬情語」は、川越（2013）、「擬容語」については、金田一（1978）を参照した。方言オノマトペの「擬容語・擬動語・擬態語・擬情語」「災害を伝える土佐ことば」「症状を伝える土佐ことば」「程度を伝える土佐ことば」「気持ちを伝える土佐ことば」について調べた。擬態語とは、「視覚性があり、音を立てないものを、音によって、生物の動作様態を象徴的に表す言葉」、擬容語とは、「視覚性があり、擬態語とは逆に、無生物の動作様態を表す言葉」、擬動語は、「視覚性があり、動きを描写する言葉」、擬情語は、「感覚・感情を含んだ人間の心の状態を表す言葉」と定義しておきたい。

方言調査は、2019年9月13日、高知市東部健康福祉センター2階ロビーにて、2019年度文化学部エッセンシャル科目「域学共生フィールドワーク」の受講生が中心に上記の調査票を活用して、面接調査法によって実施し、橋尾教授が指揮を執った。調査対象者（話者）は、現在高知市在住の70歳代4人・80歳代1人の計5人の高年層の方々である。ただし、出身が高知市以外の方も含まれるため、厳密には、生え抜きの話者であるとは言えないが、今回は、できるだけ方言オノマトペを採集することを心がけた。調査内容は、すべてICレコーダーに録音し、再度聞き直し、確認してから記録した。方言オノマトペのみをカタカナ表記した。

アンケート調査については、橋尾教授が、慶応義塾大学平高史也研究会の「医療現場における方言」に関する調査で使用したアンケート調査票を参考に、「災害介護コミュニケーション用」にアレンジしたアンケート調査票を、2019年8月1日、高知市内の福祉施設である社会福祉法人「山寿会」へ届けて回答していただく留め置き調査を行った。アンケートの回答は、8月29日に郵送で返送していただいた。30歳代8人、40歳代8人、50歳代5人の計23人の介護士の方々にご協力いただいた。

調査は、高知県立大学研究倫理審査委員会および高知県立大学文化研究倫理審査委員会の承認番号「文研倫16号」を得て実施した。なお、話者全員からは、氏名公表についての同意を得ている。

2. 方言オノマトペの調査結果

まず、方言オノマトペの調査結果を表にまとめて、以下に掲げる。

調査者は、文化学部3回生（調査時）の川田竜也・隅田久美子・竹崎菜央・多屋千咲・濱田祐可の5名である。

話者1：蒲原美恵子さん（79歳）昭和15年1月8日生まれ 言語経歴：なし 高知市出身

調査者：濱田祐可

擬容語	
ジコジコ	少しずつじりじり、そろりそろり。
ボツボツ	少しずつじりじり、そろりそろり。
ニシニシ	非使用・非理解
ジャゴジャゴ	非使用・非理解
擬動語	
ズルズル	非使用・非理解
グズグズ	早くしない様子。
キビキビ	はつらつとした様子。
ウツウツ	非使用・非理解
ウツラウツラ	非使用・非理解
擬態語	
グズグズ	風邪などがまだあまり良くなっていない様子。
グッスリ	気持ちよく眠れた様子。
ギッチリ	いつも。「物を何かにギッチリ詰める
グツタリ	熱が出てつらい様子。
カリカリ	痩せて元気な様子。
グッシャリ	落ち込み切った様子。
グツタリ	熱が出たときの様子。
ズイズイ	身体の芯が痛む様子（中・奥）。
ゾイゾイ	（主に背中が）ぞくぞくする様子。
擬情語	
シパシパ	目が乾燥している様子。
シバシバ	目が乾燥している様子。
ジンジン	（主に頭・歯・こめかみが）痛い様子。静かな痛み。
ジャンジャン	うるさい痛み。
ゾイゾイ	人の怪我を見たときの様子
ゾンゾン	よく切れる包丁を見たときの様子

ゾワゾワ	非使用・非理解
ジカジカ	痛みの手前、違和感があるときの様子。
ムカムカ	吐くまではいかず、咳が出る時の様子。
キリキリ	痛む様子。
ズキズキ	(主に歯の) 我慢ができない痛みの様子。
ズンズン	非使用・非理解
目の痛み	
ビシビシ	非使用・非理解
ゴロゴロ	目に異物が入った時の様子。
フタフタ	(走った後や忙しいときに) 胸などがどきどきする様子。
エレエレ	気を揉む様子。ヤレヤレを使用する。
キナキナ	細かく神経質な様子。
ムシムシ	暑い意味で使用

災害を伝える土佐ことば	症状を伝える土佐ことば
はよう高いところへ逃げないかん	胸が騒ぐ
明るいうちに動かんといかん	体がだるい
家が浸かる	まっこと痛い、こじゃんと痛い
雨戸を結わえる (縛る)	肌がまける (かぶれる)
しけが来る (台風)	だれた (疲れた)
	体がことうた (疲れ切った、思っていたより疲れた)
	のうが悪い
	けんびき (肩甲骨) を引く
	すね (膝) が痛い

程度を伝える土佐ことば	気持ちを伝える土佐ことば
ちっと	おおきに (一つ上の世代が使用)
おっこうな (大げさな、かさました)	すまんすまん
どっさり	～ちや (語尾に付ける)
こじゃんと (最上級)	しょういかん (誰かが亡くなったとき)
まっこと	すまざった
ぼっちり	おんしゃあ (お前、あなた)
しょうまっこと (本当に)	しゃんしもうた (失敗した、やってしまった)

やちがない (しょうがない)	
どだい (あまり信用していない)	
びっしり	
えらい	
がいな (えらいより上)	

話者 2 : 濱田和美さん (72 歳) 1947 年 9 月 19 日生まれ 女性 言語経歴 : 須崎で住んでいた時もある
南国市出身

調査者 : 竹崎菜央

擬容語	
ジコジコ	非使用・理解 少しずつじりじり、そろりそり。
ニシニシ	非使用・理解 むしむし。
ジャゴジャゴ	おじゃこを食べたときに、ざらざらとして舌触りが悪い様子。
擬動語	
ズルズル	ゆっくりと遅い様子。
グズグズ	ゆっくりと遅い様子。「グズグズするなちや」
キビキビ	元気でぼけていない様子。
ウツウツ	非使用・理解 眠くて頭や体が前後に動いたりする様子。
ウツラウツラ	眠たいときに使うが、頻度は多くない。
擬態語	
グズグズ	病気の治りが悪い様子。
グッスリ	眠りが深い様子。十分たくさんな様子。
ギッチリ	頻度が多い。
グッタリ	疲れている様子。
カリカリ	元気な様子。
シャカシャカ	元気な様子。カリカリよりよく使う。
グッシャリ	非使用・理解 閉口、落胆の様子。
グッタリ	閉口、落胆の様子。野菜がしおれているときに使う。
ズイズイ	ずきずき傷む。ズキズキの方が頻度が多い。
ゾイゾイ	ぞくぞくする様子。お化け屋敷に行ったときなどに使う。

ジャンジャン	量が多い様子。
ズンズン	歩くのが早いときなどに使う。
擬情語	
シバシバ	非使用・理解 目が乾燥している様子。
ジンジン	足がしびれる感覚。
ジャンジャン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。
ゾイゾイ	非使用・理解 ぞくぞくする。
ゾンゾン	ぞくぞくする。寒い（ひやい）ときに使う。
ゾワゾワ	非使用・理解 ぞくぞくする。
ジカジカ	歯が痛む様子。
ムカムカ	非使用・理解 胸や腹などの痛む様子。腹が立っているときに使う。
キリキリ	非使用・理解 胸や腹などの痛む様子。
ズキズキ	ずきんずきん痛む。歯が痛いときに使う。
ズンズン	非使用・理解 ずきんずきん痛む。
目の痛み	
ビシビシ	非使用・理解 目が痛い様子。
ゴロゴロ	目に異物感を感じて痛む様子。
フタフタ	非使用・理解 胸などがどきどきする様子。
エレエレ	非使用・非理解
キナキナ	非使用・非理解
ムシムシ	非使用・非理解

災害を伝える土佐ことば	症状を伝える土佐ことば
はよう、逃げないかん	ズッキンズッキン（頭が痛い様子）
しけ（台風）	まける（皮膚がかぶれる）
雨戸をゆあえる（雨戸をしぼる）	すね（膝）
	のうが悪い
	けんびき（肩甲骨）

程度を伝える土佐ことば	気持ちを伝える土佐ことば
しょうまっこと>まっこと（本当に）	すまんすまん（ごめん）
えらい<がい（きつい・強い）	しもうた（しまった。失敗したときに使う）
どっさり（とても）	
こじゃんと（とても）	その他

びっしり (何回も)	おんしゃあ (お前は) 女性よりも男性がよく使う。
ぼっちり (ちょうど)	
ちっと (少し)	
ちっとばあ (少しくらい)	
おっこうな (大袈裟な)	
やちがない (仕様がな)	

話者 3 : 中内啓二さん (76) 言語経歴 : これまで高知県内を転々してきた。佐川町出身

調査者 : 多屋千咲

擬容語	
ジコジコ	非使用・理解 少しずつじりじり、そろりそろり。
ニシニシ	非使用・非理解
ジャゴジャゴ	非使用・理解 ざらざらとして舌触りが悪い様子。
擬動語	
ズルズル	ひこずっている様子。
グズグズ	非使用・理解 軽い病気になった様子。はっきりしない様子。
キビキビ	非使用・理解 軽い病気になった様子。はっきりしない様子。
ウツウツ	非使用・非理解
ウツラウツラ	非使用・理解 眠くて頭や体が前後に動いたりする様子。
擬態語	
グズグズ	軽い病気になった様子。はっきりしない様子。
グッスリ	眠りが深い様子。十分たくさんな様子。
ギッチリ	頻度が多い。
グツタリ	疲れている様子。
カリカリ	非使用・非理解
グッシャリ	閉口、落胆の様子。
グツタリ	閉口、落胆の様子。
ズイズイ	非使用・理解 ずきずき痛む様子。
ゾイズイ	非使用・理解 ぞくぞくする様子。

ソソソソ	ぞくぞくする様子。
擬情語	
シバシバ	目が乾燥している様子。
ジンジン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。／病気や怪我で患部が絶え間なく響くように痛む。しびれる様。
ジャンジャン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。／病気や怪我で患部が絶え間なく響くように痛む。しびれる様。
ゾイゾイ	非使用・理解 ぞくぞくする様子。
ゾンゾン	ぞくぞくする。
ゾワゾワ	非使用・理解
ジカジカ	非使用・理解 胸や腹などの痛む様子。
ムカムカ	胸や腹などの痛む様子。
キリキリ	胸や腹などの痛む様子。
ズキズキ	ずきんずきん痛む。
ズンズン	ずきんずきん痛む。
目の痛み	
ビシビシ	非使用・非理解
シャバシャバ	目が痛い様子。
ゴロゴロ	目が痛い様子。
フタフタ	胸などがドキドキする様子。
エレエレ	非使用・理解 気を揉む様子。
キナキナ	非使用・理解 くよくよ。細かく神経質的に。
ムシムシ	非使用・非理解
災害を伝える土佐ことば	症状を伝える土佐ことば
家がつかる（浸水する）	ズキズキする（歯・腹・足）が痛い様子。
	ズンズンする（歯・腹・足）が痛い様子。
	ゾンゾンする（寒気がする）
程度を伝える土佐ことば	気持ちを伝える土佐ことば
へんしも（早く）	だれた（疲れた）
たっすい（だらけている様子）	～ぜよ（だよ）現在は、使わない。

話者 4: 渡辺泰方（やすかた）さん（81 歳）1938 年生まれ、言語経歴: 18 歳から 50 歳過ぎまで香川県、それ以降南国市。いの町出身

調査者: 川田竜也

擬容語	
ジコジコ	非使用・理解 少しずつじりじり、そろりそろり。
ボツボツ	少しずつじりじり、そろりそろり。
ニシニシ	非使用・非理解
ジャゴジャゴ	非使用・非理解
擬動語	
ズルズル	ひこずっている様子や音。
グズグズ	だだをこねている様子。泣きそうな様子。
キビキビ	はつらつとした様子。
ウツウツ	非使用・非理解
ウツラウツラ	眠くて頭や体が前後に動いたりする様子。
擬態語	
グズグズ	軽い病気になって、はっきりしない様子。
グッスリ	眠りが深い様子。十分たくさんな様子。
ギッチリ	頻度が多い。
グッタリ	疲れている様子。
カリカリ	元気な様子。
グッシャリ	非使用・理解 閉口、落胆の様子。
グッタリ	熱が出たときの様子。
ズイズイ	非使用・理解 ずきずき痛む様子。
ゾイゾイ	非使用・理解 ぞくぞくする様子。
擬情語	
シパシパ	目が乾燥している様子。
ジンジン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。／病気や怪我で患部が絶え間なく響くように痛む。しびれる様。
ジャンジャン	足がしびれる感覚。
ゾイゾイ	ぞくぞくする。
ゾンゾン	ぞくぞくする。
ゾワゾワ	非使用・非理解
ジカジカ	痛みの手前、違和感があるときの様子。

ムカムカ	胸や腹などの痛む様子。
キリキリ	胸や腹などの痛む様子。
ズキズキ	ずきんずきん痛む。
ズンズン	ずきんずきん痛む。
目の痛み	
ビシビシ	非使用・非理解
ゴロゴロ	目に異物が入ったときの様子。
フタフタ	非使用・理解 胸などがドキドキする様子。
エレエレ	非使用・理解 気を揉む様子。
キナキナ	非使用・非理解
ムシムシ	非使用・非理解

災害を伝える土佐ことば	症状を伝える土佐ことば
こわい (危ない)	のうが悪い
波がふとい (波が大きい)	めぼう (ものもらい)
へんしも逃げる (急いで逃げる)	コロコロする (目に睫がはさまったとき)
山がつえる (山が崩れる)	はしかい (肌にちくちくささった状態)
水がえらい (洪水で水がいっぱいの状態)	

程度を伝える土佐ことば	気持ちを伝える土佐ことば
ふとい (大きい)	なんぎな (つらい)
えらい (いっぱいの状態)	どくれる (諦める)
	まぎる (邪魔である)
がいな (えらいより上)	

話者 5：山中次男さん (70 歳) 1949 年生まれ 言語経歴：18 歳から 20 歳の間は大阪、それ以降は高知市内 消防局勤めであった。越知町出身

調査者：隅田久美子

擬容語	
ジコジコ	少しずつじりじり、そろりそろり。「ジコジコ 草を刈る」
ニシニシ	床が痛んでいる様子。「床がニシニシいう」
ジャゴジャゴ	非使用・理解 ざらざらとして舌触りが悪い様子。「口ん中がジャゴジャゴする」
擬動語	
ズルズル	ひこずっている様子や音

グズグズ	だだをこねている様子、泣きそうな様子。
キビキビ	元気でぼけていない様子。
ウツウツ	非使用・理解 眠くて頭や体が前後に動いたりする様子。
ウツラウツラ	眠くて頭や体が前後に動いたりする様子。
擬態語	
グズグズ	軽い病気になった様子。「風邪でグズグズしゅう」
グッスリ	眠りが深い様子。十分たくさんな様子。
ギッチリ	頻度が多い。
グッタリ	疲れている様子。
カリカリ	非使用・非理解
グッシャリ	非使用・非理解
グッタリ	閉口、落胆の様子。
ズイズイ	非使用・非理解
ゾイゾイ	非使用・理解 ぞくぞくする様子。
ソンソン	ぞくぞくする様子。
擬情語	
シパシパ	非使用・理解 目が乾燥している様子。
ジンジン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。／病気や怪我で患部が絶え間なく響くように痛む。しびれる様。
ジャンジャン	頭が痛い様子。耳が痛い様子。足がしびれる感覚。／病気や怪我で患部が絶え間なく響くように痛む。しびれる様。
ゾイゾイ	非使用・理解 ぞくぞくする。
ゾンゾン	ぞくぞくする。
ゾワゾワ	非使用・理解
ジカジカ	胸や腹などの痛む様子。
ムカムカ	胸や腹などの痛む様子。
キリキリ	胸や腹などの痛む様子。
ズキズキ	ずきんずきん痛む。
ズンズン	非使用・非理解
目の痛み	
ビシビシ	非使用・非理解

ゴロゴロ	目が痛い様子。「埃が目に入ってゴロゴロする」
フタフタ	胸などがドキドキする様子。脈が速いときの様子。「走ってきてフタフタする」
エレエレ	気を揉む様子。気がせっている（焦っている）ときの様子。
キナキナ	非使用・非理解
ムシムシ	非使用・非理解

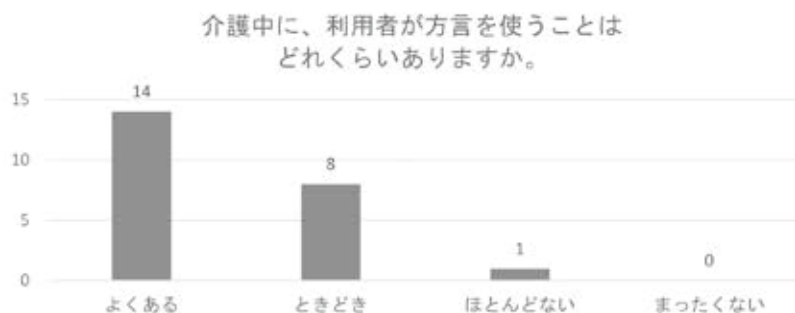
災害を伝える土佐ことば	症状を伝える土佐ことば
へんしも逃げや（早く逃げなさい）	足がいうこときかん（足が思うように動かない）
田んぼに水が入って来ゆう（田んぼの水嵩が増している）	のうが悪い（具合がわるい、しっくりこない）
沈下橋を超えた（沈下橋を超えるほど川が増水している、危険）	目がかすんじゅう（目の焦点が合いにくい）
山がつえた（山に土砂崩れがおきた）	喉がイガイガする（喉が乾燥している）
川（雨、波）がえらい（川〈雨、波〉が激しい様子のこと）	
家が浸かる（家が浸水した）	

程度を伝える土佐ことば	気持ちを伝える土佐ことば
ぼっちり（ちょうど）	たまらん、たまるか（おどろいた）
まけまけ（容器から液体があふれる寸前の様子）	なんぎな（つらい、しんどい） しょうめった（困った）
ぴっと（ほんの少し）	せく（急ぐ）
こじゃんと（とても）	

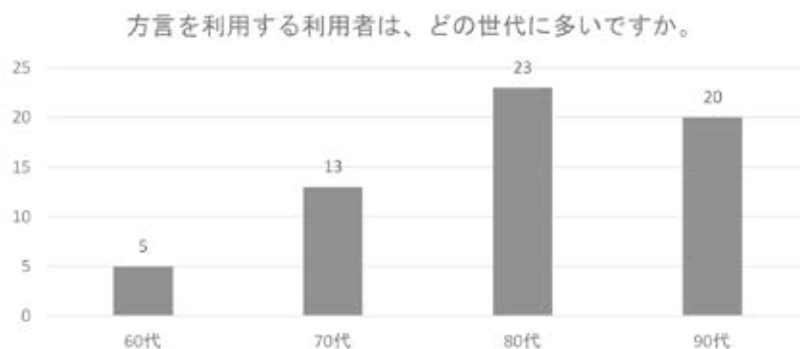
3. アンケート調査結果

次に、高知市内の福祉施設に勤務される、30歳代8人、40歳代8人、50歳代5人の計23人の介護士の方々に回答していただいた、「介護現場における方言」に関するアンケート調査結果を掲げる。

問1 介護中に、利用者が方言を使うことはどれくらいありますか。

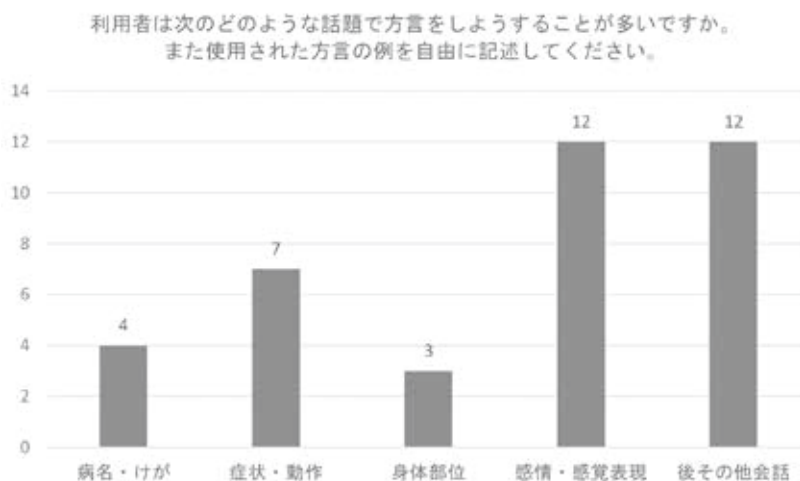


問2 方言を利用する利用者は、どの世代に多いですか。



問3 利用者は次のどのような話題で方言をしようすることが多いですか。

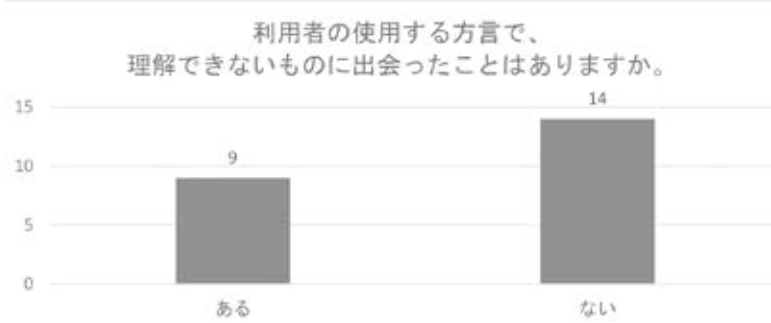
また使用された方言の例を自由に記述してください。



(使用された方言の例)

のうが悪い、こじゃんと、いよいよ、しゃんしゃん、いんげの、おっこうな、ぎっちり、ざっとしちゅう、ざんじ、ずつない、たまあるか、ちゃがまっちゅう、とぎ、ぼっちり、めっそうもない、めったちや、じこじこ、ふたふた、じんじん、しくしく、きびきび、ごごとと、ぐっすり、うかうか、きどめ、打っちゅう、どうしゅうろう、あんのきや、ほんで、なんちゃあない、ずきずき、もんもん、ぞんぞん、ずるずる、車にじゃがれる

問4 利用者の使用する方言で、理解できないものに出会ったことはありますか。

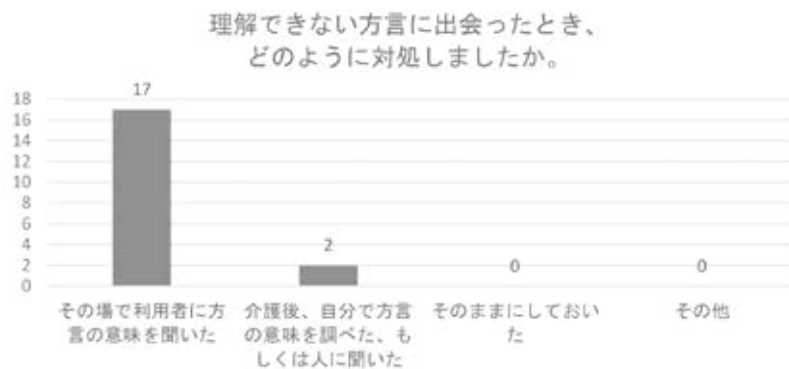


問5 それはどのような方言で、共通語ではどのような意味でしたか。

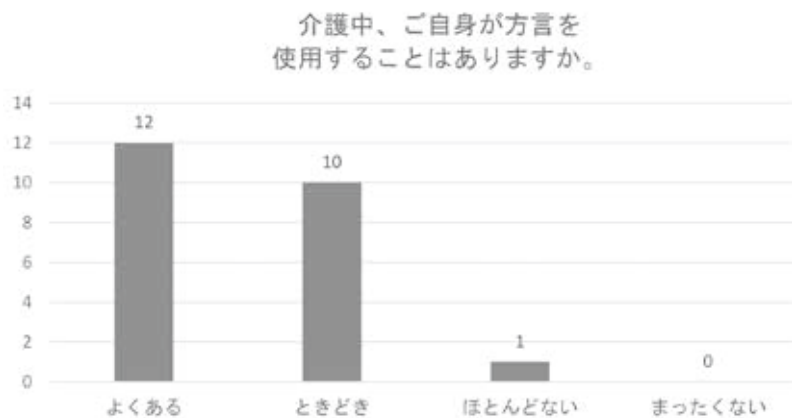
また、その方言を使用した利用者は何歳代でしたか。

方言	共通語訳	利用者の年代
あんのきや	上を向きなさい	80代
おじょじょ	女性の服	
ぎょうさん	たくさん	70～80代

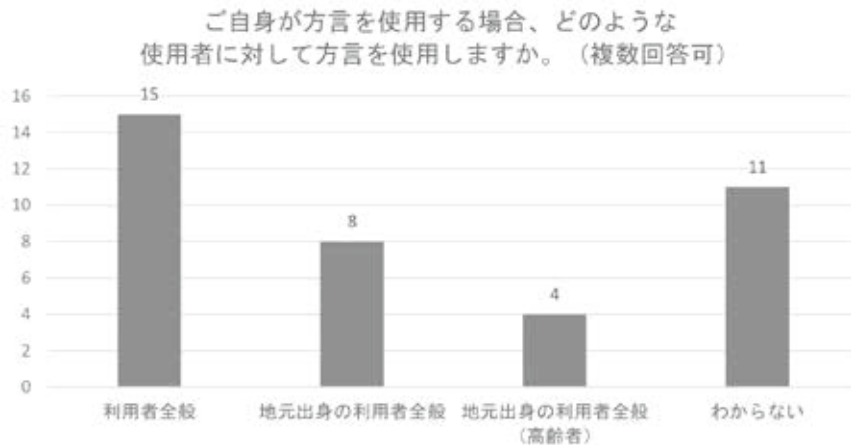
問6 理解できない方言に出会ったとき、どのように対処しましたか。



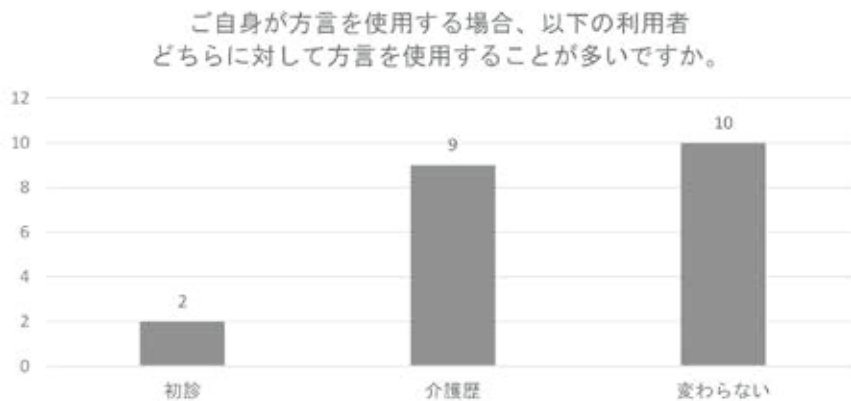
問7 介護中、ご自身が方言を使用することはありますか。



問8 ご自身が方言を使用する場合、どのような使用者に対して方言を使用しますか。
(複数回答可)



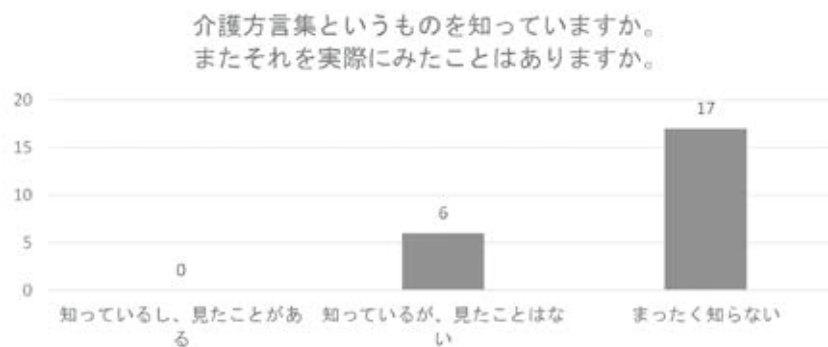
問9 ご自身が方言を使用する場合、以下の利用者どちらに対して方言を使用することが多いですか。



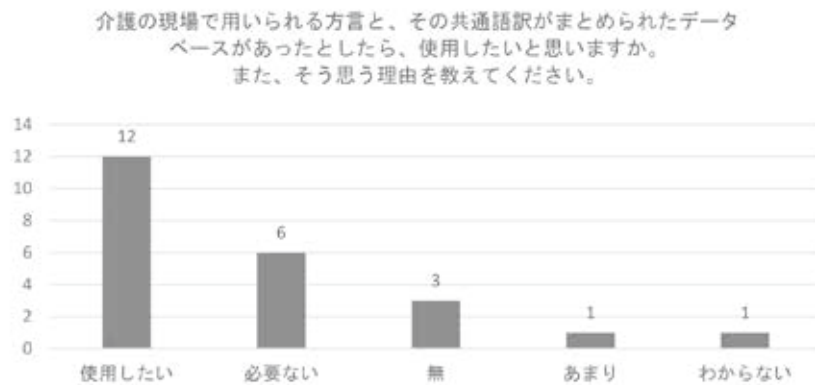
問10 介護時に方言を使用することにはどのような効果があると思いますか。

- ・共通の話題が増える
- ・親近感がわく、親しみをもてる
- ・その人の人生に寄り添える
- ・安心感を与える
- ・思いが伝わりやすい
- ・場が和やかになる
- ・利用者の緊張をほぐす、心の距離を縮める

問11 介護方言集というものを知っていますか。またそれを実際にみたことはありますか。



問 12 介護の現場で用いられる方言と、その共通語訳がまとめられたデータベースがあったとしたら、使用したいと思いますか。



①使用したい理由

- ・親近感がわくから
- ・言葉の意味が分かれば楽しいから
- ・コミュニケーションがとりやすくなる、話のきっかけづくりになる
- ・利用者の訴えを聞き入れることができる（ニーズを把握できる）

②必要ないと思う理由

- ・方言ばかり話すわけではないので、分からない時は聞けばいい。そこで会話が盛り上がる時もある。
- ・自分自身が方言を話すので、理解できる

4. おわりに

最後に、分析結果で得られたことおよび聞き取り調査の感想を述べて、締めくくりたい。

介護を受ける側も介護をする側も方言を使う機会が多いというアンケート結果から、介護現場において方言がコミュニケーションを取る手段となっていることが明らかになった。また、方言には、場の空気を穏やかにする効果があり、方言の使用がより良い介護につながっていると感じられた。また、介護の現場で用いられる表現とその共通語訳がまとめられたデータベースに関し、「必要ない」との回答をした理由として「意味を聞いた方が会話が盛り上がる」とあり、方言が分からないことが、負のイメージにならないことも知った。一方で、方言の意味が分かると対応が容易になったり、会話が弾むことにつながったりするため、データベースを「使用したい」との回答が最も多く、需要を見込むことができそうである。

(アンケート集計結果から得られたこと)

- ・主に 80・90 代の利用者が介護中に方言をよく使用している。
- ・利用者が方言を使用するのは感情・感覚表現が最も多い。
- ・介護者の半数以上が利用者の使用する方言をしっかりと理解できている。
- ・理解できない方言に出会ったときは利用者に直接その意味を聞くことがコミュニケーションになっている。
- ・介護者のほぼ全員が介護中に方言を使用していることで方言特有の親しみや温かみを感じるようにしている。
- ・介護者の半数以上が利用者全般に方言を使用しており、次いで地元の利用者への使用が多く見受けら

れた。

- ・方言は初心の利用者、介護歴のある利用者に関わらず全員に使用している。
- ・介護者の半数以上が介護方言集をまったく知らなかった。
- ・介護者の半数以上が方言と共通語訳のデータベースを使用したいと回答している。

(集計結果とインタビュー内容の相互関係)

- ・使用された方言の例として出てきた土佐弁には共通しているものが多かった。
- ・共通の土佐弁が多いことから会話をしても意味が通じそうだと感じた。
- ・使用者の思いは同じだと感じた。
- ・片方でしか出てこなかった土佐弁もあった。
- ・初めて聞く土佐弁もあった。

(感想、発見等)

今回フィールドに出て、土佐弁の実態についての話を直接聞き、座学だけでは学ぶことのできない大変貴重な体験をすることができた。高知県出身の自分自身が知らないたくさんの土佐弁に触れることができ、その意味や使用場面、心情などと併せて聞き取り調査を行うことができた。一対一での話し合いだったからこそ、分からない部分はしっかりと詰めて聞き取ることができた。

土佐弁の独特な言い回しやイントネーションは、聞いていてとても面白かった。また、聞き取り調査をして終わりではなく、介護施設のスタッフの方に回答をもらったアンケートの集計を行うことで、それぞれ共通した土佐弁や異なる土佐弁を見つけて比較することができた。詳しく記入してくれている介護スタッフの方が多く、土佐弁の勉強をするに当たってとても参考になった。まだまだ出てこない土佐弁があると思うので、それらに出会うために今後も何らかの形で調査に参加し、土佐弁の知識を深めたいと思った。また、方言が使用者間にもたらす効果は大きく、コミュニケーションをとるうえで欠かせないツールになっていることが分かった。土佐弁の調査では、使用頻度が減っている現実や上の世代から継承できていない問題なども浮き彫りになったので、もっと方言を大切にしなければならぬと思った。

介護現場での方言の在り方、存在意義についても知ることができたので、今までとは違う土佐弁の見方を養うことに繋がった。さまざまな視点から方言を見つめ直すきっかけを作っていくことが大切だと感じた。土佐弁を楽しく聞いたり見たりしながら学ぶことができたので、とても良い機会になった。より一層土佐弁に対する理解が高まり、誇りを持てるようになった。

高知市在住の話者の皆さん、社会福祉法人「山寿会」関係者の皆さん、お忙しい中、本調査にご協力いただき、ありがとうございました。ここに記して、感謝申し上げます。

【参考文献】

- 岩城裕之 (2009) 「医療現場で利用できる方言データベースの開発」『呉工業高等専門学校研究報告』第 71 号 pp. 57-66
- 川越めぐみ (2013) 「山形県寒河江市方言オノマトペの意味とオノマトペ辞の関わりについて」『文化』

第 76 卷 3・4 号 pp.288-269

金田一春彦 (1978) 「擬音語・擬態語 概説」『擬音語・擬態語辞典』角川書店

肥後 球 (2008) 『医療現場における方言の活用』慶応義塾大学湘南藤沢学会

【参考 URL】

「医療関係者のための．高知の方言．Ver.2.0」(高知大学医学部家庭医療学講座)

http://www.kochi-ms.ac.jp/~ff_famed/pdf/tosaben.pdf

「保健・医療・福祉方言」データベース (高知大学教育学部岩城研究室)

<http://ww4.tiki.ne.jp/~rockcat/hoken/database.html>

(はしお なおかず・本学部教授、かわだ たつや・すみだ くみこ・たけざき なお・たや ちさき・
はまだ ゆうか・以上本学部 3 回生)